

編輯室內外

皇紀二千五百九十九年を送り二千六百年の昭和十五年を迎へて、「少壯は最も有望なるも徒らに齡を恃むべきにあらず。老年は前途幾何くもなければ尙ほ爲すことあるに堪ふ」との雪嶺翁の訓言を想起し、「千里より鎮定の表や君か春」との里風の一句も何んとなく磨れし。されど東亞新秩序の建設、日支事變處理の問題を思ふとき前途尙遼遠にして吾々の努力幾何を要するか、明年度の政府査定の歳計豫算額は驚くなから、實に百三億圓を超過する、之を二十年前の大正九年即ち道路法實施の年度に於ける二十億餘萬圓に比するに五倍以上に増加する、此時代の變移に對し我國民上下層の感想や如何。

支那事變處理、東亞新秩序の建設と人は言ふが若し日本と支那を同じ處に置いて考へたがる政治家が居たとしたら飛んでもない事だ、今更何を言ふかと思ふかも知れないが眞に非常時局の波を乗り越えらるる責任のある政治を遂行してもらいたうは大竹貫一翁は語る、日本人は武力に於ては優に他民族を凌駕し得るが他民族の心理を理解し認識し之をつかむ能力をもつか否かと評する論者もある、いづれも他山の石か。

物の缺乏はあくまで物の缺乏であつて物の缺乏そのことが決して道徳であり得ない

編輯室內外

しかし人間が物の缺乏に堪へ忍び之に打ち克つところに崇高な道徳があるのだと言ふ、異論はない、困難は玉になり得るのである。物資缺乏、物價騰貴、租稅負擔の重課等々々時局の要求で年々歳々著しきを加へらる、國民の死闘の覺悟は此處に在る、だが「百年戰爭宣言」は如何なる影響を國民の心理に及ぼすであらうか輕々しく宣言を弄ぶことは絶対的禁物である。

藉勸中央聯盟の吉田理事は「國民としては細かい數字のことは知らずとも物の不足に堪へて行くべきことは承知して居るが、今日では何故に物資の不足に堪へて行かねばならぬか其の理由を十分に知らせる努力が不足して居ると思ふ、政府が國民に此點を十分に納得させる努力を惜まぬことが赤誠溢るる國民の協力を得る所以であらうと思ふ」と言ふ之れは國民の聲である、聲なきに附けとのことではなく此聲に聞かれたし。

我國ガソリン鐵罐の今日、其救済は焦眉の急務である、滿鐵會社では水素添加法や低溫乾溜法で石炭の液化を企てて居るが大日本燃料鐵業株式會社の堀長三郎技師に依つて低溫高溫乾溜法が發明せられ最も經濟的に石炭の液化が出来ることとなつた、天我國を捨てず、ガソリン界の明朗な福音。

樵歌、牧笛の聲人間萬事様々に世を渡りゆく其の中に舞踊といふ藝術は政治的に科

學的に經濟的に如何なる價值あるや否やなどと言ふ勿れ。鏡獅子での左に右に狂ひ飛ぶ蝶々に右手の彌子頭の眼は右の蝶に彌生の眼は左の蝶に彌子の體は右の蝶に彌生に別れて働きの妙技、分裂でなくして統制されて居る、統制の中に自由あり、自由を綜合する所に統制があるではなからうか。

奪ふよりも與ふる事を原則とすべきである東亞の新秩序なるもの、從來の概念中に此意味の心の用意を忘れて支那に對し、苟も功利主義と對立意識とに基く各種の獨善的なる諸條件諸計畫偽購の標語等を強要するの意味が寸毫たりとも包含されて居るならば今より明白に其觀念を改めてかゝらねばならぬと紫雲莊主人は公言す、言論の勇に止まらざれば幸甚。(一一、一二、洗)

定價一部 五十錢
一ケ年分 金六圓

發行所 東京市麴町區霞關一丁目内務省內
社團 道路改良會
法人 電話銀座(7)四二七〇

編輯者 東京市世田ヶ區代田壹丁目七八〇
小島 效

印刷所 東京市小石川區諏訪町五六
常磐印刷所
奈良直